



ヘビは、^{えもの さが}どうやって獲物を探すの

ヘビは、^{め みみ}目も耳もあまりよくない

ヘビは、^{みみ たいか}耳が退化して、^{おと き}ほとんど音は聞こえません。^{め あか}目も、^{かん}明るさを感じるていどです。その分、^{ぶん}においを感じる^{かん}嗅覚とか、^{きゅうかく}温度変化を感じとる^{おんど へんか}器官が^{かん}発達しています。

ヘビは、たえず、^{した くち}ぺろぺろと舌を口から出し入れしています。舌の先は^{だ い}二またに割れていて、^{した さき}空気中^{ふた}にただよっている、^わにおいのもとになっているものを^{あつ}集め、^{うわ}上あごにある^{かんかくき かん}感覚器官（^{き かん}ヤコブソン器官）に^{おく}送ります。ヘビは、この^{かんかくき かん}感覚器官で、^{あじ}においや味、^{えもの}獲物の種類などを^{しゅるい}確かめます。

^{ちか}近くに^{えもの}獲物がいれば、その^{えもの}においで、ヘビは^{はっけん}すぐ獲物を発見できるわけです。

赤外線^{せきがいせん}で獲物^{えもの}を発見^{はっけん}する

ヘビの種類^{しゅるい}によっては、^{おんど}温度に^{かん}びん感なものもいます。これらのヘビは、^{えもの}獲物の^{たいおん}体温や^{くうき}空気^{おんど へんか}のわずかな^{えもの}温度変化で、^{ほうこう}獲物のいる^{りょうほう}方向が^めわかるのです。マムシは、^{した}両方の^こ目のすぐ下に、^{き かん}2個のくぼみ（^{えもの}ピット器官）があります。このくぼみで、^{たいおん}獲物の^{せきがいせん}体温（^{せきがいせん}赤外線）をとらえ、^{えもの}獲物のいる^{ばしょ}場所^しを知ることができます。インドニシキヘビは、^{おんど}くちびるに^{かん}温度を感じる^{ちい}小さい^{き かん}あな（^{せきがいせん}ピット器官）をもっています。

ヘビは、^{しゅるい}種類によって^{ひるまかつどう}昼間活動するものと、^{よるまかつどう}夜活動するものがあります。夜活動する^{よるまかつどう}毒ヘビは、^{き かん}ピット器官をもっていることが^{おお}多いといえます。

ヘビ^{つか}使いのヘビは、^{おと き}音を聞いてはいない

ヘビ^{つか}使いの^{ふえ}笛にあわせて^{ふえ}コブラが^{うご}おどるのは、^こ笛の動きにあわせて、^{こう}攻げきのポーズをとっているだけで、ヘビには^{ふえ}笛の^{おと}音は^き聞こえていないのです。（監修・今泉 忠明）

